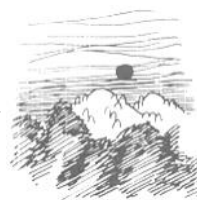


哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行(記録:安藤彰浩、編集:中川健史)(主宰:吉田千秋 090-7917-9602 yoshida0@sepia.ocn.ne.jp)

吉田千秋(主宰)から

全国に先駆けてこの「哲学カフェ」を2008年6月9日に開設して以来、この2月まで一回も休まずに140回の例会を行ってきました。

だが、この3月の例会は、新型コロナ感染防止のために、初めて休会し、さらに状況が好転しないので、4月例会も休会せざるを得なくなりました。このような時点にこそ、「世の中を根っこからとらえる 知的共同の場」として、「わいわい がやがや みんなでテツガク」することが大切なのに、大変残念なことです。

さて、先日ある知り合いから、「変な時代になりました。もしかしたら思考構造を変えなくては・・」というメールが届きました。たしかにいま、この世の中に起こっていることは体験したことのないことが多く、いままでの自分の考え方、枠組みではスッキリとらえることができません。面倒くさいので考えるのを止める、という「誘惑」さえ生じてきます。でも、今こそしっかり考え、判断し、行動したいものです。

ところで、「思考構造を変える」と言っても、実は、自分の「考え方」「とらえ方」というのは、意外と自分には分かっていないのではないのでしょうか。他人に「そんな考え方していたらダメでは・・」と指摘されて初めて、「ああそうか、自分はこんな考え方していたのだ」と教えられることがよくあります。自分の考えが正しい、公平だと思っても、ある固定した見方、価値観からしかとらえておらず、根深い偏見を払拭できていない場合もあります。

ということは、自分がどういう考え方、とらえ方をしているのかを、多くの人たちから教えてもらうことが必要です。そのためには、まずもっていま世の中に何が起こっているのかをしっかりと見つける必要があります。この「しっかりと」というのもくせ者です。「ポスト真実」の時代、いま「事実」でないもの(偽事実=フェイク)がいっぱい出回り、押し寄せてきているから



自宅の庭にて

です。何が事実であり、何が真実であり、何が価値あるものなのか、これを見極めるには、できるかぎり多くの人々の言説(ニュースや論説だけでなく、小説や映画など多くの芸術文化も)に耳を傾け、自分なりに確かなものをつかむ努力をするしかないように思います。

いま私たちは、気候危機、新型コロナの猛威、極大化している富と貧困の格差・差別など、これまで体験したことがない未曾有の事態に遭遇しています。これと向き合って推移を見つめるとともに、これが文字通りの世界のグローバル化の中で進行し、政治・経済の権力者たちの愚かな支配欲によって増幅されてきたことを忘れずに刻みつけたいものです。

どうかこの機会を活かし、新たな知を得、鋭気を養って元気にお過ごし下さい。

早い機会に例会が開催でき、皆さんとともに語り合える日を楽しみにしています。

(2020. 4. 1)

＜皆さんからの意見、たよりなど＞

今回は、例会を休止しましたので、例会の感想ではなく、いろいろなたより、意見を寄せて頂きましたので、掲載します。

○いつも「哲学カフェ通信」ありがとうございます。最気になっていることと言えばやはりコロナウィルス。だんだん大変なことになってきてしまって、どうなるのか見当もつきませんが、穏やかな春の日差しとのギャップに少し緊張気味です。世界各地の感染のニュースとともに、規制緩和のニュースも流れ、早く日常を取り戻したい気持ちと、重々気を付けることも大切だと思う気持ちが自己防衛になりやすい自分に選択を迫ってきて困ります。

それに加えてデータ通信の普及です。在宅勤務や画像配信、新しいシステムはノウハウを教わっても仕組みをイメージすることができないので、間違えてはいけないプレッシャーで疲れてしまいます。データを送った先を見ることも聞くこともできず、香りもなく触れることもできないで状態はとてモストレスを感じます。経済活動も環境問題ももっとアナログに解決しよう！そんな思いでいっぱいです。

(たかこ)

○ノッポ、りょうます。心理学の活動をしています。先日、毎週参加している座禅会で、仏教の前提は『理不尽』と聞きました。世の中は思い通りにならない事だらけ。思いもよらない事が突然起きます。連日、新型コロナウイルスの報道が過熱していますが、そこで差別やいじめが起きているようです。いじめはいけないと叫ばれる昨今、なぜそうなるのか？ 感染しているかも知れない人達を遠ざける。自分の身を守るためには仕方がない事。いじめの大半はこんな心理が働いているように感じます。つまり、いじめはなくなりません。社会からいじめをなくそうとするよりも、世の中は理不尽と理解していじめに負けない心を培う事が重要だと感じています。心理学でそんな未来を実現できるよう努力を続けます。

(ryoma)

○＜ファクト＞も政治次第・金次第にさせないために世界の気象学者の94%が認める地球温暖化現象について、それに異を唱える説もある中、トランプ

米大統領はこの後者に立ってパリ協定からの離脱を図り正当化した。その背後には、国際的な化石燃料ビジネスが温暖化を否定する学者たちに資金を提供し、「温暖化は虚偽」とのプロパガンダの成功があったと言われている。原発問題も然りで、金力や権力で＜ファクト＞を曲げ、提灯学者やメディアを使って情報を操作してきた。こうした科学的な検証・論証が難しい分野に限らず、近年日本では、広範囲で権力に都合のいいように事実を隠蔽し・ごまかし・改ざんする事例が日常化している。＜ファクト＞を知らされない社会については、日本人は戦前戦争時に痛い体験をしたはずだ。学問の自由・表現の自由を十全に確保し、インターネットを含むクリアな報道の確保がいよいよ重要になってきた。

(フィリピン・ウオッチャー)

○最近「教員の長時間労働」が社会問題となっています。昨年12月、働き方改革として「1年単位の変形労働時間制」が導入可能となる改正給特法が成立。これは公立校教員が多忙期の[定時]を延ばして、閑散期は勤務時間を短くし、休みを取れるという制度です。しかしこの制度は教員の働き方改革にはつながらずとして、導入反対の公立高校教員がいます。西村祐二さんです。西村さんは2016年から「公立校教員には時間外勤務手当を支給しない」定めた給特法の問題点を訴えてきました。今年1月にも、「岐阜・九条の会」主催の＜サロン9条＞で、活動経過と市民との会話を通して、今後の活動への市民の参加を訴えられましたので私も参加しました。皆様のお支援をよろしくお願い致します。(井口)

○現在の世界を蓋う禍々しいウイルス禍こそ、現代グローバリズムの裏面の顔ではなかるうか？ これほど早く世界に広がり、各地の伝統文化を伝えている老弱者を死に至らしめている現実、グローバル資本主義そのものの禍々しい姿であろう。マスコミも単に現象を伝えるのみでなく、その依って来る淵源、弱者切り捨て、文化破壊のグローバリズム

の問題にまで議論を展開してほしいと思う。しかしこれは哲学カフェの仕事か。早く再開が望まれる。

(ヒラミツ)

○3月例会のテーマであった、自然災害について調べました。主に、気候変動のことを勉強しました。気候変動に対応するためには、グローバルに成り立つ自由市場経済に、大きな力で、介入していかなければならない、小さな地域経済を、成り立たせなければなりません。規制緩和型資本主義がガンである。規制がなされなければなりません。温室効果ガスを、減らさなければなりません。その為に、自然エネルギーへ切り替えていかなければなりません。その為に、企業も、環境保護団体も、各国政府も、国民も、全てが、変わらなければなりません。その変化を阻むのは、現在の経済モデルの原理である。現実に存在する問題として、誰も否定できない結果が出るのだから、人々の意識変化に訴えるべきものである。(E)

○香港の暴動が収束すると、武漢でコロナ騒動。香港の暴動は民主化運動ではない。富裕層の合法的なマネーロンダリングを封じ込めようとする中国と、それを阻止しようとする世界の富裕層との情報戦。中国は阻止できなかった。日本の富裕層もかかわっていたと思う。コロナ騒動のふろくには膨大なインフラ利権が潜んでいる。5G である。今後国内でも5G インフラが見える形で話題になるだろう。5G インフラは環境への負担が懸念されている。人々は要塞都市で暮らす。5G インフラの環境汚染で、人々は要塞都市で暮らすようになる。豊田がTV で未来都市をふうちょうしている。未来都市に暮らせない非富裕層。彼らが5G インフラの環境汚染から逃れ、安心・安全に暮らせる生活基盤を構築したい。非富裕層は富裕層にとって必要だから存在する。必要がなくなればいなくなる。非富裕層分の人口減少が起きる。夢でも見ているのか・幻想か。

(こうこうぶん わへい)

○この5年間、現居住区の自治会の班長、会計及び書記を担当させて頂きましたが、わが自治会にはいろいろな問題があることに気が付きました。例えば、①自治会への入会条件として、7万円必要であ

ること(自治法260条の2に違反)。②自治会費から、赤十字や歳末助け合い募金を一括払い(最高裁判所第一小法廷で違法の判決)。③自治会費から、白山神社と神明神社の「奉納金」の納入。(信教の自由の点で、憲法違反の疑い。佐賀地裁判決)。④会長と副会長の選任において、十分な論議がなされず、非民主的な決定が行われている。民主的な自治会の運営に必要なことは、情報を「公開」、「共有」、「継承」することですが、この3原則が、本自治会では、十分に機能していない。今後も孤軍奮闘です。(島田幹夫)

○「予測のつかない未来に対する不安」

コロナウイルスがいつ終息するのか全くわからない今、メディアはそのニュースで毎日、もちきりだ。町中に不思議な空気が蔓延しているかに…。会社や商店は、この停滞した経済の中でどれだけ持ちこたえていけるのか。経済成長のみを目指してきたかにみえる戦後70有余年。そんな時代の転換点になるのではと考えてみる。かつての経済恐慌の再来を許すほど、人間はバカではないと思いたい。大量生産、大量消費の経済発展の思想から抜け出す契機になるのではと、思うのは空想でしかないのだろうか。競争社会が人間の幸不幸とは無縁かどうかは、歴史が証明するであろう。それまで生きてはいないけれど。(平塚)

○「ああせい、こうせい、要請。どうせい？」

単なる会議での発言がそのまま全国に徹底。なかなか、見られない光景です。

閣議で決めたわけでもありません。普通はこんなふうです。国が決めたなら都道府県(以下県)に伝えます。県は市町村(以下市)に伝えます。市は各学校に伝えます。県立や私学は県が伝えます。学校と文部科学省は、実は法律上は対等なのです。県や市で裁量の余地はありますが。

学校を休校にするには、「学校保健安全法」で県、市や学校法人は、感染症の予防上必要あるときは臨時休業ができる、となっているのです。教育委員会と言っても日常は3~5人の非常勤の教育委員ではなく、事務局の人たちが教育行政の専門職として教育機関への助言や指導をしています。

政治的にはどうかはこの際、触れません。教育と政治は峻別しなくてはなりません。だから「要請」なのです。「募る」と「募集」の理解できない人ですが、要請のことは知っていて、意味がわからなかったようです。(怒り) (野口)

○コロナ騒ぎについて、自分の脳に浮かんだ妄想と夢想を書きます。コロナウイルスが経済に大きな影響を与えているのはご承知の通りで、株式や金相場は明日はどっちだ、ジョー。という状態で、約90年ぶりの大恐慌の可能性もでてきて興味深く観ています。また世界体制の構造転換にまでつながるのかなと、そんな妄想は膨らみます。いままでの体制転換は世界大戦によるものでしたが、今回はコロナウイルスがやってくれたかという感じで、戦争でよりもましかなとも思います。なぜならコロナでは若い世代は死にませんから。以上、不謹慎ながら根拠のない妄想を書き連ねてみました。＜追加＞具体的にはアメリカ帝国、共産党の中華帝国、EUドイツ第四帝国の終わりの始まりです。(たなか)

○「いつまで続くパンデミック」

新型コロナウイルスの影響で、世界経済は大混乱に陥っている。オリンピックも1年延長のなった。人類がこの新型ウイルスを封じ込めるには一年かかるだろうと言われている。問題は、この間の世界経済の影響であろう。物流の流れが減速及び停滞し、それに伴って、お金の流れも停滞すれば、政府はインフレーション政策を視野に入れているのではないだろうか？ 大量のお札を刷って市場に投入すればお金の価値も下がりだす。これに不況が加われば、スタグフレーションに陥る可能性も十分ありうる。

最近日本経済が破綻するという本も出始めた。

＜三陸だより(7)＞「命の道」～三陸沿岸道路～

2020年3月11日、日本中が祈りに包まれました。東日本大震災から9年目の日です。2時46分、沿岸の被災地では、海に向かってこうべを垂れる人々の姿がたくさん見られました。同時に、そこでは、あることを待ち望んでいる人たちが大勢います。それは、復興道路の完成です。

2月15日(土)と2月22日(土)放送のNHK「ブラタモ

とにかく、大変な時代がやってくることは間違いないであろう。(安永)

○現在の世界を蓋う禍々しいウイルス禍こそ、現代グローバリズムの裏面の顔ではなからうか？これ程早く世界に広がり、各地の伝統文化を伝えている老弱者を死に至らしめている現実、グローバル資本主義そのものの禍々しい姿であろう。マスコミも単に現象を伝えるのみでなく、その依って来る淵源、弱者切り捨て、文化破壊のグローバリズムの問題にまで議論を展開してほしいと思う。しかしこれは哲学カフェの仕事か。早く再開が望まれる。

(ヒラミツ)

○フラワーデモは47都道府県すべての地で行われるようになった、岐阜や三重でも。その呼びかけびとはやはり性暴力をうけた若い女性の方であった。3月8日国際女性デーの日を一区切りにするという。「あー、私は行こう！」自転車に乗り柳ヶ瀬の花屋さんで160円のカーネーションを買い、集いの場に行った。呼びかけ人の話の後、私は57年前の小学5年生の頃の体験を話した。話す前から涙が流れた。なぜか、マイクを渡してくれた呼びかけの女性も涙を流していた..

ネットで調べると、寄せられた何十という声。家のなかで実父に義父に兄に従兄弟になどからの性暴力、道行けば見知らぬ男から、電車に乗れば...日本社会はこんなふうにも子ども、女性をもて遊んでも、虐げても良しの社会になっているんだ。まさに『性奴隷』になっている女性たちがいるんだ。声をあげなくては、この事実は認識されないし、対策も教育もうまない。まずは語りだした女性たちの声を男性も女性も聴こう。お願いします。(尚子)



り」でご覧になった方もいらっしゃるかもしれませんが、三陸沿岸は典型的なリアス海岸です。海と山に囲まれた小さな入り江に町が形成され、現在に至っています。良港に恵まれ、漁業がさかんではありますが、町から町へ、つまり入り江から入り江に移動するには、船しかなかった時代もありました。三陸沿岸が「陸の孤島」と呼ばれる所以です。三陸沿岸を通る中

心的な道路は国道45号ですが、険しい峠道も多く、交通アクセスが良好とはとても言えない状況でした。

そこで、青森県の八戸から宮城県仙台までの沿岸部を結ぶ三陸沿岸道路の構想が生まれました。工事は震災前から始まっていましたが、進捗は思わしくなく、沿線住民はじっと待っていました。震災後は、復興支援で予算がつき、工事が本格化したという経緯があります。

この道路は、地域住民に「命の道」とよばれ、まさに悲願という道路にほかなりません。一方で、メディアからは「バラマキ」と批判されることもあります。コンクリートの公共事業ではなく、教育や福祉にお金をかけるべきだ、と。もちろん、その視点は大事であり、完成時の交通量を考えると、費用対効果の面で難しい側面もあるでしょう。しかし、沿岸の住民にとって、この命の道が完成すれば、急病時の病院へのアクセス向上、新鮮な魚介類の出荷の時間短縮、三陸を訪れる観光客の増加など、多くの効果があることは確かです。

公共事業の本来のあり方を、私たちはどのように考えればよいのでしょうか。新型コロナウイルスの影響は計り知れないものとなっており、生活に困窮する人々の様子が日々伝えられています。道路よりも、医

療に、教育に、費用を割り当てればよいのではないかという意見にも耳を傾ける必要があるでしょう。このような状況下で、道路の完成を待ち望むのは何とも心苦しい限りではありますが住民は今後の進捗を見守っています。(M)



(国土交通省東北地方整備局ウェブページより)

<びっくりWORLDぎふ No.5>

「よー、地芝居日本ー！」

獅子の頭を被り黒紋付の着物すがた、「して、トさまの名前は?」「あいあーい、ト様の名前は十郎兵衛」「かか様の名前は?」「あいあーい、かか様の名前はお弓と申します」

…人形浄瑠璃で有名な“傾城阿波の鳴門「順礼歌の段」”である。岐阜に引っ越してきて間もなく、獅子芝居というものがあると知る。チラシをみてびっくり! 獅子頭を被って芝居をするなんて! そして、その舞台はお獅子を被ってしようが、笈摺(オヅリ)を背に菅笠を手に、脚絆・わらじ姿のわが子を見て、うろたえ動揺する母親でありほろりとする。まいった、まいった! 獅子芝居は地歌舞伎よりも遅く幕末のころの興りであった。村人が芝居をするということはどういうことだろうか。台本を読む力、役になりきる力、鳴り物

を奏でる力、衣裳や道具・舞台をまかなう力、村の総意でまた自治の力がなければ成り立たない。そのことを江戸時代1700年ごろから美濃・飛騨の村でぽつぽつと現れてきた。江戸幕府は、享保の改革をはじめ芝居小屋の禁止など、文化に対する禁止のお触れをたびたび出すが、農民たちはいろんな工夫をしながら演じ楽しんできた。獅子芝居は見張りの者が幕府役人を見つけたなら、すぐさま獅子舞に戻れるようにと工夫されたと聞く。尾張や美濃の町人・農民の恐るべき知恵と娯楽を芯から楽しむ楽天性に降参する。「地芝居日本ー!」を観光の目玉として力を入れている岐阜県。「地歌舞伎」という呼称がある。中央の歌舞伎ではなく、地元民が役者となって演じる歌舞伎の呼称である。岐阜県下には歌舞伎のみならず、人形浄瑠璃、能・狂言、獅子芝居の4種の演劇演舞があり、それらを「地芝居」と称している。その数は地歌

舞伎・28、獅子芝居・5、人形浄瑠璃・5、能狂言・1と保存会がある。舞台・衣裳・演者とすべてを住民でやりきっている。(丸山幸太郎著「岐阜県地芝居史」)地芝居の他にも大谷田のひんこまつり、揖斐春日の太鼓踊り、伊自良の雨乞い踊り、郡上の伊勢神楽や明宝寒水の掛け踊り、飛騨の獅子舞、さらに子ども歌舞伎の山車に花馬に。まだまだあるよ。白鳥白山神社の六日まつりは「延年の舞い」から途中「花奪い」がおこなわれる。また、大和の明建神社の七日祭りは田楽の様式を留めている。それらを思い描いてみると、笛や太鼓に舞いにと頭の中は大騒ぎ!!こんなにもいろいろな民俗芸能が継承されているとは、どういうことだろうか。春・秋のまつりでは、あちこちの集落で奉納芸能が催されている。あるいは盆の供養に村

社や墓地の前で舞われている。

私には民俗芸能そのものの魅力もさることながら、なぜ人は何百年も前のものを演じるのか、そこに何があり、何をその地域に形作っているのだろうか。そんなことをびっくりしながらさらに探求したいと思っている。



(白鳥白山神社にて)

(佐藤尚子)



マルクス・ガブリエル他著 『資本主義の終わりが、人間の終焉か? 未来への大分岐』
(集英社新書) 2019年

この本は、経済思想家齊藤幸平氏が3人の思想家と対談し編集したものである。

第1部は、ウォール街のオキュパイ(占拠)運動の支柱となった、政治哲学者マイケル・ハートとの対談。サンダース現象やコービンを支えるものについて語られ、なぜ日本では社会変革が起きないのか、安倍政権がこんなに長く続くのはなぜかに迫る。折々、二人の共通認識として、マルクスの言葉が引用されているのがおもしろい。新しい民主主義の可能性についても話されている。

第2部は「新実在論」の騎手、マルクス・ガブリエル。資本主義は大分岐点に立たされている。気候変動、経済格差、難民問題など。銃剣を胸に突き付けられているようなもの。あなた任せにしていたら、人類の終焉がやってくる。「新実在論」は事実と向き合い、その事実を科学者だけに任せず、多方面から熟議して、地球規模の在り方をそれぞれが考えようというもの。彼は、考える基盤には哲学の土台、倫理が必要だ、という。

第3部は経済ジャーナリストのポール・メイソン。彼は、資本主義は情報テクノロジー・AIによって崩壊すると主張。今こそ、新しい経済社会へ移行する時だと警鐘を鳴らす。マルクスの描いた社会主義は、ロシア

や中国のような国家主義、政治主義ではなかった。人々の痛みを分かち合う下からの社会的協働、社会運動こそが、新しい時代を作る、という。

4人が語ったことは、もうカウントダウンに入っている。危機の深刻さ。今こそ、自由、平等、連帯そして民主主義の価値の上に新しい社会をつ

くっていかう、ということだった。それは一人ひとりが自分の態度を決める哲学を持つことの重要性でもあった。

いま、地球はコロナ旋風の渦中にあるが、私たちは、その事実をちゃんと見て、その対処の仕方を、熟議しているだろうか。
(かこちゃん)



2020年前半 哲学カフェ、第24期の予定

場所 岐阜市八代3丁目27-8「ふれあいスペース」
例会は19:00～21:00です。

第139回例会 1月9日(木)	「激動の世界、新年の展望を語りあう」(＝新年会も) * 昨年に続いて、今年も激動する世界・日本、これにどう向き合うのか。 * 平穩無事に行きそうもない中、飲食物を持ちより、真剣かつ楽しく語り合う場に。 ⇒開始時間を6:30にします。酒類はなし。よろしく参集願います。	終了 しました
第140回例会 2月13日(木)	「100兆円を越える国家予算。収支とも大問題では？」 * 今年の国家予算は超大型予算。税収入を甘く見積もり、またもや赤字国債増。 * 支出でも大企業有利な政策目白押し。軍事費最高、国民生活はひっ迫。いいの？	終了 しました
第141回例会 3月12日(木)	「近年相次ぐ「自然」災害、備えは大丈夫か？」 * 近年、地震のみならず、台風による河川決壊、浸水、死傷者続出、避難 * これは「自然災害」ではなく、「人災」ではないか。これにどう対処するの？	中止 しました
第142回例会 4月9日(木)	「大学入試はどうあってはならないのか？」 * 来年度実施予定の「大学入試改革」は、文科省の不手際、批判続出でご破算に。 * 大学入試のあり方を、あらためて根本から考えなければならないのではないか。	中止 します
第143回例会 5月14日(木)	「急増するフリーランス、外国人労働者。どうなるの？」 * 混迷続きの外国人労働者受け入れ問題にくわえて、新たに浮上した労働問題。 * 「労働者」ではなく、個人自由契約のフリーランサー。その問題点を探る。	
第144回例会 6月11日(木)	「あらためて家族のいまと、その行く末は？」 * 「万引き家族」で示されたように、日本でも、家族・家族観はかなり多様化した。 * でも、いまだ「家族」主義に拘泥し、個々人の自立を阻むものになっていないか。	
第145回例会 7月4日or12日	創立12周年記念行事 * 昨年は、「人口減少社会をどうとらえ、どう備えるのか？」で、シンポ開催。 * 今年はどうするか？ テーマ、講師など自由に、早めに意見を寄せて下さい	

哲学カフェの運営資金の協力も、よろしく願います。口座記号・口座番号 00810 1 142912

加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫

「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中!! <http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>わいわいがやがや
アラカルト

★こんなことが許されるのだろうか、という悲憤に駆られる事柄はいっぱいある。昔も今も。先日、あの森友学園問題で、安倍首相とその妻が絡んだ疑惑問題で、証拠隠滅の「仕事」を負わされた近畿財務局の職員赤井さんの遺族が遺書を公開され、国と佐川元国税庁長に損害賠償の訴訟を起こされた。

★その手記と遺書を見ると驚くべき内容が記録されている。「今回の問題はすべて財務省理財局が行い、その指示の元は佐川元理財局長とします。」と記し、日夜記録の削除と改ざんに従事した苦勞、苦難が記されている。

★さらに、驚くべきことに、会計検査院の調査に対しても、内部記録を見せないように徹底し、記録文書そのものがないとした。まさに、財務省、政府権力による改ざん隠蔽の犯罪行為です。新たな事実がたくさんある。

★赤井さんは極力抵抗しましたがダメになり、結局、「全責任は負う」と言った近畿財務局長、佐川理財局長など、当事者はすべて栄転しました。赤井さんは遺

書に書いています、「最後は下部がしっぽを切られる」と。

★この悲痛な叫びに対して、再調査を求めて訴えたことに、安倍首相と麻生財務大臣は、「新たな事実はない」「再調査はしない」と応答した。そんなバカな・何たることか、これが一国の責任ある人間の回答なのか。

★遺書の一つの最後に、「なんて世の中だ。手がふるえる。怖い命 大切な命 終止符」と手書きされている。四国霊場51番札所石手寺に、「平和とは 人の痛みが分かること」の看板がある。今最も大なのはこのことではなからうか。

★このことをさらに痛感したのは、新型コロナウイルス感染防止対策での安倍政権の対策。初期対策を誤り、挽回しようと専門家の意見も聞かずに全国一斉休校、さらに「非常事態宣言」可能な法律。国民の命や生活についての痛みには思いは馳せず、ひたすら自分の権力延命だけ。いまボクらはもうちっと怒りの声をささなくては…
(吉田千秋)

